事業共創でソーシャルイノベーションを！電話×AI でつなぐ、高齢化社会の家族の絆

"環境変化や人口減少、社会課題が当たり前になってきている時代で企業同士が手を組むあるいは企業と行政が連携する、いろいろなパターンが考えられますけども、企業に眠るレガシーを呼び覚まして、企業同士がお互いの課題や知見あるいは技術ですね、そういったものをかけ合わせてプロジェクトを開発したらいったいどうなんだろうかと思っています。

協創にはものすごく希望があると思っています。"

社会課題への突破口として生み出されたのが、NTT コミュニケーションズの事業共創プログラム「OPEN HUB for Smart World」

各領域に精通した専門家であるカタリストの「人」とともに、 多様なアイデアや最先端の「技」を組み合わせて、 リアルとバーチャルな「場」で思考を重ね、社会課題解決に向けた事業を創出しています。

開設から 3 年で創出した共創プロジェクト数は 1000 件にも及んでいます。

水稲栽培の中干し期間延長による J-クレジット創出
インフラマネジメントでずっと豊かに暮らせる社会を実現「JCLaaS 事業」
森林価値創造プラットフォーム「森かち」

生まれてきた共創ビジネスの一つをクローズアップして紹介しましょう。

"私の祖父母がですね、認知症になって。父親方は自宅介護で、父親が親孝行だと思ってやっていたんですがだんだんだんだんその、親の絆だけでは継続できないほどちょっとひずみが起きてそういった苦労があったというのと、祖母はですね、介護施設に入ったんですけど、健康状態もよく体調もいいですけども、やはり短期記憶がなくて。おばあちゃんに喜んでもらおうと思って、毎回毎回孫を連れて行くんですけど「初めましてどなた」みたいなことを言われてですね。本当に、普通に生活してるんですけれど、幸せな記憶すらも保持できないというのはちょっと非常に寂しくて。

何かこういった認知症にまつわる家族の苦しみであったり本人の幸せみたいなところをですね、IT のテクノロジーで何か良い未来に変えることができないのかと思ったのが発端ですね。"

こうして、電話と AI をかけ合わせた「脳の健康チェック」が誕生しました。

電話で投げかけた質問に対する話し方・回答内容・声のトーンなどの発話内容を AI が総合的に把握し、その場で結果を伝えます。

また、過去の記憶を呼び起こすことで脳の活性化を図る回想法に着目し、AI と思い出話をする機能もトライアルリリース。継続的にサービスを利用することで、早い段階での認知機能の低下に気づくことができます。

"認知症に優しい街三鷹の実現に向けて高齢者福祉を担う福祉 Labo としましても企業との連携を模索していたところ、CogSmart さんとご縁ができまして、様々な取り組みを進めているところです。

今回のプロジェクトの取り組みでは、電話での簡単なチェックということでこれまであまり認知症に関心のなかった世代の方にも取り組んでいただけたということがひとつのメリットだと思っています。"

"商店街のイベントの中で我々がビラを配りながら、この場でやってみませんか？といったところ、その場で脳の健康チェックをすすめてくださっている高齢者さんですとか、40 代、50 代の方も結構受けてもらったりしています。

そういった手軽さが、市民の方々に広める上で、すごく役に立ったなというふうには感じております。

これを頻繁に使ってもらい、健やかな状態で過ごしていけるように使えるといいなと考えております。"

こうした社会課題にアプローチする案件の創出に加え、OPEN HUB では社会課題に取り組む事業共創アワードを開催。

世の中のソーシャルイノベーションを盛り上げ、社会全体の課題意識の底上げを行っています。

これからも OPEN HUB はあらゆる社会課題の解決を通してサステナブルな社会の実現を目指します。